

*Une journée
dans la forêt bressane*

「ワイン

の良さっていうのはね、どういう食事をするかによって決まるんだよ。ワインというのは食事に合わせて選ぶもので、それ自体で良いの悪いのっていうようなものじゃないんだよ。」と、街の朝市にワインを売りに来ていたジョルジュさん。彼が売るのは安いワイン。だけどどれも、彼が一軒一軒農家をめぐり、試飲をしながら買い付けたもの。「今度うちにおいでよ、お昼を一緒に食べようよ。」日差しが強くなる、夏の始めの水曜日。

というわけで次の週の水曜日、お昼前の11時半、ブレス地方にあるジョルジュさんの家を訪ねることに。チーズで有名なフランス東部のジュラ山脈、その西の端にかかるブレス地方はソーヌ川の沖積平野で、コナラを主体とした森がひろがり下草が繁茂して草いきれがする地域。あちこちに沼が点在し、森の中にときどき現れるのは、赤煉瓦の壁と黒い柱、白いレースのカーテンののぞく窓の小さな民家、民家。

そんな森

の中に、トレーラーハウスを改造して一人で住むジョルジュさん。家の前に木のテーブルを出してきて、まずはお決まりの食前酒のアニス酒から。乾杯！木々から漏れる日差しも優しく、ああ今日は気持ちがいい。「朝市っていうのはね、もちろん安いっていうのもあるけどね、みんなおしゃべりをしたくてくるもんなのさ。みんなはそこで家族の話をしていくんだ。」ふーん、そうなんだ、どうりであちこちに朝市が立つ

ブ レ ス の 森 の 一 日

フ ラ ン ス 東 部 ブ レ ス 地 方 の 夏 の 一 日



はずだ。そんな話をしながらジョルジュさん、とおきおきの南仏の赤ワインの栓を抜き、持ってきたのはささっと作った前菜のサラダ。「俺は昔は軍隊にいて、モロッコなんかで情報操作や心理操作をしていたんだ」。へえ、こんなところにそんな人が住んでいるのか。「ま、やばいことはしなかったけどね。」ほんとかなあ。「今は、ジュラの各地の朝市でワインを売って、その合間にブルゴーニュに買い付けに行くんだよ。安くてもいいワインはいっぱいある。でも朝市は週に4日しか行かないし、それも午前中だけだからね。午後はこうして家で本を読んだりのんびり過ごしているのさ」あー、なんて幸せな生活。といいながら、2本目のワインとメインディッシュの鶏の丸焼きにマスタード。



写真■ブレス地方の森■ブレス地方の民家■ブレスの街ルーアンの市の風景■ルーアンの市での鶏の売買■ブレスの鶏の料理とジュラのワイン■ブレス地方を流れるセイユ川

フランス

では昼食がとても大事。農民たちにとって「グルメである（美食的）」というのは、まず第一に量

があること、そして時間をかけること。ある子供の初聖体拝領の昼食会に招かれたときは大変だった。12時半頃にまず食前酒とオードブルから始まり、それからシャンパンを開けて前菜2品（魚と肉で、このときすでにお腹いっぱい）、ワインを飲みながらメインディッシュの肉料理2品（ローストビーフと牛肉の煮込み）とアントルメ、それからさらにデザートが2品。食べ終わった頃にはもう4時半過ぎ。それからコーヒーと食後酒を飲みながらわいわいと世間話をし、ダンスが始まる。そうこうしているうちに日も暮れるけど、なんと、8時頃には「さあ夕食だ」と言って、スープに前菜のサラダと、簡単なメインディッシュ。なんという大食漢たち！！デザートとコーヒーが終わる頃にはもう10時半、お腹がはち切れそうになって饗宴の一日が終わる。もちろん、こんなことがいつもある訳ではないけど、ワインを飲んで食事をしながらわいわいとやるのがみんなの楽しみ。ジュラ出身のユートピア社会主義思想家フォーリエは、来るべき未来の調和社会では人は一日に5食とると言ったけれど、そんなこと言われなくても、ジュラの農民は今でもすでに一日に5

食をとっている。ユートピアンたち。

フランスは今では失業率も高く、特に若い人は就職できる保証はない。それはジュラでも同じこと。けれどもこうしたのんびり時間をつぶしてまであくせく働くなって、馬鹿げているとも思っている。必要な分は働くけど、それ以上は家族と過ごす時間がとても大事。資本主義のシステムを批判してジュラに生まれた社会主義的思想も、実はそんな農民たちの生活から生まれたもの。食べ物だって時間が大事。このブレス地方の有名な鶏も、畑に放し飼いにして時間をかけて育てられ、母から娘へと受け継がれ、世代を超えた家族の時間が込められる。

2本目の

本目のワインの酔いが心地よく体の隅々にわたる頃、ようやくデザートのヨーグルトに。あれ、もう2時半か。コーヒーも終わるとジョルジュさん、「じゃ、僕はちょっと昼寝するね」と、パンツ1枚になって自分の部屋へ。酔っぱらった私は車を運転するわけにもいけないので、木陰でやっぱり、うとうと。むんとする草の香りの中、こうして今日も一日が過ぎていく...

『月刊みんぱく』2005年10月号（特集・スローライフ）

